

ECO VISION 2040

岡山県環境基本計画
エコビジョン2040

より良い環境に恵まれた持続可能な社会 ～山から海まで 豊かな岡山を 次世代へ～ を目指して



岡山県は、北部には吉井川、旭川、高梁川の水源である緑豊かな中国山地、中部には自然あふれる吉備高原、南部には多島美を織り成し貴重な水産資源の宝庫でもある瀬戸内海が広がり、県土全体が“山から海まで”多彩で豊かな環境に恵まれています。この県民共有のかけがえのない財産を守り、そして次の世代へ引き継いでいくことは、私たちに課せられた重要な責務です。

環境の状況は、社会・経済情勢とも関連しながら変化し、大気や水、廃棄物など、私たちの暮らしの身近な場面に影響を及ぼしています。また近年は、気候変動や生物多様性の喪失、海洋汚染など世界的な環境問題も顕著になっており、とりわけ急務とされる地球温暖化対策では、“脱炭素社会”の実現に向けた動きが国内外で加速し、人々の関心や注目もますます高まっています。

さらに、新型コロナウイルス感染症の拡大は、世界中に大きな影響を与え、社会のあり方そのものを変えると同時に、経済の回復に当たっては、環境の改善を同時に進める「グリーンリカバリー（緑の復興）」も求められるところとなっています。

県では、環境に関する広範な課題に対応するため、岡山県環境基本条例に基づく環境基本計画を策定し、環境保全に関する施策・事業の総合的・計画的な推進を図ってきたところですが、平成20(2008)年に策定(平成29(2017)年に第2次改訂)した「新岡山県環境基本計画(エコビジョン2020)」の期間満了に伴い、こうした国内外の動きなども踏まえ、新たに「岡山県環境基本計画(エコビジョン2040)」を策定いたしました。

今後、この計画に沿って、さらに取組を進めていく上では、県民や事業者、関係団体など、あらゆる方々の積極的な関わりと連携・協力が何より重要です。

すべての県民が明るい笑顔で暮らす「生き生き岡山」と、岡山の豊かな環境を守り引き継ぐ「より良い環境に恵まれた持続可能な社会」の実現を目指し、一体となって取り組んでいけるよう、皆さま方のさらなるご理解とご協力をお願い申し上げます。

最後に、本計画の策定に当たり、熱心にご検討くださいました岡山県環境審議会の委員の皆さまをはじめ、貴重なご意見をいただきました県民の皆さまに心から感謝申し上げます。

令和3(2021)年3月

岡山県知事 伊原本 隆太

ECO VISION 2040

岡山県環境基本計画
エコビジョン2040

目次

岡山県環境基本計画 エコビジョン2040	4	●生物多様性国家戦略	25
4つの基本目標	6	●瀬戸内海環境保全基本計画	26
2つの横断的な視点	8	<関連する国の方針等>	26
第1章 基本的事項	9	3 県内の現状と課題	28
1 計画の目的と位置づけ	10	(1) 地域から取り組む地球環境の保全	28
2 計画の期間	11	(2) 循環型社会の形成	30
3 計画の構成	11	(3) 安全な生活環境の確保	31
第2章 環境を取り巻く情勢と課題	13	(4) 自然と共生した社会の形成	32
1 世界の情勢と課題	14	(5) 参加と協働による快適な環境の保全	33
(1) 気候変動	14	(6) 環境と経済が好循環する	33
(2) 生物多様性の低下	15	仕組みづくり	
(3) 海ごみによる海洋汚染	16	第3章 目指す姿	35
(4) SDGs	17	1 目指す将来の姿	36
2 国内の現状と課題	19	2 目指す姿の具体的なイメージ	37
(1) 人口減少、少子化・高齢化の進行	19	(1) 気候変動対策が進んでいる社会	37
(2) 人口の偏在と地域の担い手の減少	20	(2) 資源循環の仕組みが構築された社会	37
(3) 頻発する大規模な豪雨災害	20	(3) 安全・安心な生活環境に	38
(4) 国の方針・計画	21	囲まれた社会	
<環境政策の方向性>	21	(4) 自然と共生した社会	38
●環境基本計画	21	(5) 環境保全と経済発展が両立し、	39
●地球温暖化対策計画と	22	一人ひとりの意識や関わりのもと、	
気候変動適応計画		誰もがより良い環境で暮らす社会	
●循環型社会形成推進基本計画	23		
●海岸漂着物対策を総合的かつ	24		
効果的に推進するための			
基本的な方針			

第4章 具体的な取組	41
基本目標	42
I 気候変動対策(緩和・適応)の推進	42
新エネルギーの導入推進	42
省エネルギーの推進	43
脱炭素社会に向けたライフスタイル・	44
ビジネススタイルの定着促進	
環境に配慮した交通環境の	45
整備と活用の推進	
温室効果ガスの排出抑制と	46
吸収源対策の推進	
気候変動への適応	47
II 循環型社会の形成	49
循環型社会実現に向けた	49
意識改革と実践	
一般廃棄物の3Rの推進	50
産業廃棄物の3Rの推進	51
廃棄物の適正処理の推進	52
不法投棄等の根絶と環境美化の推進	53
災害廃棄物に対する備え	53
III 安全・安心な生活環境の保全と創出	55
大気環境の保全	55
水環境の保全	56
児島湖水質保全対策の推進	56
瀬戸内海の保全と再生	57
騒音・振動・悪臭の防止	58
土壌・地下水汚染の防止	58
有害化学物質による環境汚染の防止	59
環境放射線の監視	59
IV 自然と共生した社会の形成	61
自然公園等の保護と利用促進	61
野生生物の保護と適正な管理の推進	62
自然とのふれあいの推進	63
里地・里山の保全	63
水とみどりに恵まれた環境の保全と創出	64

横断的な視点	66
I 環境の未来を支える担い手づくり	66
協働による環境保全活動の促進	66
環境学習・環境教育の充実	67
景観の保全と創造	68
II 環境の未来を創る経済振興	70
環境等関連分野の産業の振興	70
環境と好循環した農林水産業の振興	71
環境保全に貢献する認証・	71
認定制度の普及促進	
環境に配慮した事業者の育成・拡大	72
第5章 計画の進め方	75
1 推進体制	76
(1) 連携・協働の体制	76
(2) 進捗管理と継続的改善	77
(3) 計画の見直し	77
2 取組の内容に応じた実施方法等の工夫	78
参考資料	79
岡山県環境基本計画 これまでの歩み	80
岡山県環境基本計画	81
(エコビジョン2040)の策定経過	
環境保全に関する個別の条例・計画	81
用語集	82
SDGs	98
重点プログラム・指標一覧	100
県民意見等の概要	110
岡山県環境基本条例	114

ECO VISION 2040

岡山県環境基本計画
エコビジョン2040



©岡山県マスコット
「ももち」と
「うらっち」

計画の目的

岡山県環境基本条例の理念に基づき
環境の保全に関する施策を総合的
かつ計画的に推進します。

基本理念

- 環境の保全は、県民の健全で恵み豊かな環境の恵沢を享受する権利を実現し、健全で恵み豊かな環境を将来の世代へ継承する責任を果たすことを旨として、行われなければならない。
- 環境の保全は、社会経済活動その他の活動による環境への負荷をできる限り低減することその他の環境の保全に関する行動により、人と自然との共生が確保されるとともに持続的に発展することができる社会が構築されることを旨として、すべてのものの参加の下に行われなければならない。
- 地球環境保全は、人類共通の課題であるとともに県民の健康で文化的な生活を将来にわたって確保する上での課題であることにかんがみ、積極的に推進されなければならない。

2040年頃 目指す姿 (長期的な視点)

より良い環境に恵まれた
持続可能な社会
～山から海まで
豊かな岡山を
次世代へ～

令和3年度～令和6年度
2021年度～2024年度

具体的な取組

基本目標

気候変動対策（緩和・適応）の推進
循環型社会の形成
安全・安心な生活環境の保全と創出
自然と共生した社会の形成

横断的な視点

環境の未来を支える担い手づくり
環境の未来を創る経済振興

基本目標：目指す姿の実現に向けた施策の柱
横断的な視点：基本目標を進める上での土台

体系図



4つの基本目標

I 基本目標 →P42 気候変動対策(緩和・適応)の推進



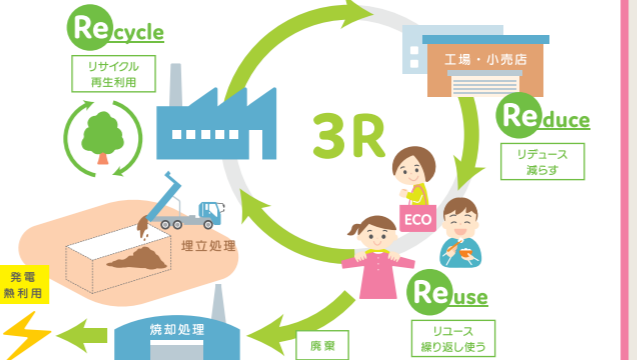
地球温暖化防止の取組をさらに進めるため、新エネルギーの導入促進や省エネルギーの推進のほか、脱炭素社会に向けたライフスタイルの定着、森林保全等による吸収源対策などに取り組むとともに、気候変動影響の被害を回避・軽減する適応策についても、具体的な取組につなげていくための検討や調整を進めます。

- 新エネルギーの導入推進 →P42
- 省エネルギーの推進 →P43
- 脱炭素社会に向けたライフスタイル・ビジネススタイルの定着促進 →P44
- 環境に配慮した交通環境の整備と活用の推進 →P45
- 温室効果ガスの排出抑制と吸収源対策の推進 →P46
- 気候変動への適応 →P47

指標の例

指標	現状 令和元年度(2019年度)	努力目標 令和6年度(2024年度)
県内に設置された太陽光発電総設備容量	1,802メガワット(累計)	3,500メガワット(累計)
エコドライブ宣言者数	35,456人(累計)	47,000人(累計)
電気自動車等(EV・PHEV・FCV)の普及台数	5,797台(累計)	8,600台(累計)
岡山県温室効果ガス排出量算定・報告・公表制度の対象となる事業所の温室効果ガス排出量	3,281万t-CO ₂	2,895万t-CO ₂

II 基本目標 →P49 循環型社会の形成



資源循環等により環境への負荷を可能な限り抑える“循環型社会”の形成に向け、キャンペーン等を通じた意識の醸成や実践行動への働きかけ、3Rの促進、廃棄物の適正処理の推進などに取り組むほか、災害時の廃棄物処理が円滑に行えるよう、地域ごとの体制づくりを支援する取組を進めます。

- 循環型社会実現に向けた意識改革と実践 →P49
- 一般廃棄物の3Rの推進 →P50
- 産業廃棄物の3Rの推進 →P51
- 廃棄物の適正処理の推進 →P52
- 不法投棄等の根絶と環境美化の推進 →P53
- 災害廃棄物に対する備え →P53

指標の例

指標	現状 令和元年度(2019年度)	努力目標 令和6年度(2024年度)
循環資源登録数*	441件(累計)	470件(累計)
一般廃棄物の排出抑制・資源化率	96.3% 平成30年度(2018年度)	97%
産業廃棄物の排出抑制・資源化率	95.6% 平成30年度(2018年度)	96%

※：循環資源(廃棄物及び使用済製品や副産物等のうち有用なもの。)を提供したい事業者と利用したい事業者がインターネット上で(情報交換し、資源の有効活用を行う「循環資源マッチングシステム」)への登録数

III 基本目標 →P55 安全・安心な生活環境の保全と創出



大気や水などの生活環境の安全・安心を守るため、PM2.5対策をはじめ、児島湖や瀬戸内海の再生、工場への指導等を通じた土壌汚染対策、騒音・振動・悪臭の防止、アスベストやダイオキシン類等の有害化学物質による環境汚染の防止、環境放射線の監視など、様々な対策を講じます。

- 大気環境の保全 →P55
- 水環境の保全 →P56
- 児島湖水質保全対策の推進 →P56
- 瀬戸内海の保全と再生 →P57
- 騒音・振動・悪臭の防止 →P58
- 土壌・地下水汚染の防止 →P58
- 有害化学物質による環境汚染の防止 →P59
- 環境放射線の監視 →P59

指標の例

指標	現状 令和元年度(2019年度)	努力目標 令和6年度(2024年度)
工場・事業場の排ガス等基準適合率	98%	100%
児島湖の水質目標値(COD)	8.1mg/L ^{※1}	7.2mg/L ^{※2}

※1：平成29(2017)年度～令和元(2019)年度の平均値
※2：令和4(2022)年度～令和6(2024)年度の平均値

IV 基本目標 →P61 自然と共生した社会の形成



人と自然が共生した社会を目指し、自然公園の保護や魅力向上による利用促進、希少野生動物植物など野生生物の保護と管理、体験や学習等を通じた自然とのふれあいの推進、里山の保全やみどりの創出など、本県の豊かな自然や優れた景観を守り、親しみ、次代へつないでいく取組を進めます。

- 自然公園等の保護と利用促進 →P61
- 野生生物の保護と適正な管理の推進 →P62
- 自然とのふれあいの推進 →P63
- 里地・里山の保全 →P63
- 水とみどりに恵まれた環境の保全と創出 →P64

指標の例

指標	現状 令和元年度(2019年度)	努力目標 令和6年度(2024年度)
自然公園利用者数	1,100万人 平成30年度(2018年度)	1,210万人
長距離自然歩道の利用者数	143万人 平成30年度(2018年度)	160万人
身近な自然体験プログラムの参加者数	28,636人 [※]	30,000人
少花粉スギ・ヒノキ苗木による植替えの割合	96.6%	100%

※：平成28(2016)年度～令和元(2019)年度の平均値

2つの横断的な視点

I 横断的な視点

→P66

環境の未来を支える担い手づくり



環境保全の取組が、分野や業種、世代や立場を越えたあらゆる主体の参加と協働のもとで進められるよう、体験型の環境学習や環境教育のさらなる充実をはじめ、それらを担う指導者の育成や、関係者間の連携・ネットワークの場の提供、地域活動等の自主的な取組への支援など、担い手づくりに取り組みます。

協働による環境保全活動の促進 →P66

環境学習・環境教育の充実 →P67

景観の保全と創造 →P68

指標の例

指標	現状 令和元年度(2019年度)	努力目標 令和6年度(2024年度)
グリーンイベント登録数	17件	30件
環境学習出前講座・環境学習エコツアー参加人数	27,593人	20,000人以上
環境学習指導者登録数	108人(累計)	130人(累計)
景観行政団体の数	9市町村	12市町村

II 横断的な視点

→P70

環境の未来を創る経済振興



世界の潮流や全国的な動きも捉えながら、県内においても、経済の成長・発展と環境の保全の両立が図られるよう、環境関連分野の新技术や研究開発に取り組み事業者への支援や、環境と好循環する農林水産業の振興、環境負荷の少ない経営や製品を認証・認定する制度の普及促進などの取組を進めます。

環境等関連分野の産業の振興 →P70

環境と好循環した農林水産業の振興 →P71

環境保全に貢献する認証・認定制度の普及促進 →P71

環境に配慮した事業者の育成・拡大 →P72

指標の例

指標	現状 令和元年度(2019年度)	努力目標 令和6年度(2024年度)
エコアクション 21 認証・登録事業者の数	110事業者(累計)	130事業者(累計)
岡山県エコ製品の認定品目数	372品目(累計)	380品目(累計)
岡山県グリーン調達ガイドラインに基づく調達目標を設定している品目のうち目標を達成した品目の割合	95%	100%

ECO VISION 2040

岡山県環境基本計画
エコビジョン2040

第1章

基本的事項